

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きっずサポートてんま(多機能型 保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 15日		～ 2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 11月 15日		～ 2025年 12月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 11月 15日		～ 2025年 12月 25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	16	(回答数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型の利用児の園訪問は、小集団療育と園集団での行動観察等の比較などを通じ、環境に合わせた支援方法を提案を具体的に死行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントに基づく観察の実施 ・集団内での取り組みとしての声かけや支援の具体例の実践と助言の実施 ・特性・発達段階について、具体例を交えた共通理解する 	アセスメント結果なども踏まえ、特性理解に基づく支援の充実を図ってまいります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・連携の充実として、園からの電話相談による連携や支援方法の提案、園の先生でのてんま見学等を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の変化に合わせた支援方法の提案 ・保護者支援の共有 ・事業所嘱託医(児童精神科医)の助言の共有 ・主治医との連携に当たり訪問先からの情報収集を実施 	各園の特徴やクラスの構成員・地域性などの環境に基づいて、より良い支援について連携して参ります。
3	市内をメインとした近隣の園や10キロ圏内の園に通う利用児の利用を活かし、就学を見据えた連携を念頭に、支援の提案を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・就学先を踏まえた支援方法の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向け、各機関との連携の充実を図ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問日程(間隔 時間帯)について	事業所側：訪問支援の水準を保つための調整が必要 園 側：受け入れ可能日の調整が必要	訪問日以外の連携については、電話等の通信手段の活用を、各訪問先に伝え、連携に努めていく
2	事業所の資源(職員の確保)	多機能型の事業所として、発達支援の経験年数の長い職員を訪問支援員を配置して訪問を実施	療育と保育の経験・資格を持つ職員の育成のために、施設全体で行う研修の充実などの拡充を図り、人事を育成する
3			